

## 消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	優先道路走行時、脇道から車両が突出した事例
3. 体験した事例の中心的要素	<p>相手車両について 脇道から優先道路に進入する際は、優先道路側に通行車両がないことを確認し、進入する義務がある。確認の際に使用する道路反射鏡の設置角度などにより、また、運転手の技術不足により車両先端部が突出してしまうことがある。</p> <p>本事案では脇道で一時停止していた車両(道路反射鏡で確認した)が、指揮車の通過直前に前進したことにより、相手車両先端部分と接触する危険があった。</p>
4. 体験した事例の原因・理由	<p>脇道から優先道路に進入する運転手の技術不足。</p> <p>指揮車機関員は道路反射鏡で一時停止している脇道の車両を確認し、万が一に備えて減速及び左側(脇道側)に車間をとっていたため、急ハンドル、急ブレーキの対処をすることなく通過した。</p>

【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成26年12月13日 午後2時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：●●警察署●●駐在所西側
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷しそうになった。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我をしていた(させていた)だろう
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	交通事故
7. 事例体験時の活動	その他:
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他： 事務連絡のため、指揮車で各出張所に出向途上。
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	これまでに1, 2回程度体験している。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[42]歳、勤続年数[20]年、現場経験年数[20]年、階級[消防士長] 同様の活動[ ], 任務[機関員]
○当事者B	年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ]年、階級[ ] 同様の活動[ ], 任務[ ]
○当事者C	年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ]年、階級[ ] 同様の活動[ ], 任務[ ]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生時の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A (機関員)	優先道路走行中、道路反射鏡にて脇道に車両が一時停止しているのを確認した。	
経過2	当事者A (機関員)	脇道の車両が前進してくる可能性を考えた。	
経過3	当事者A (機関員)	サイドミラーで後方を確認後、左側(脇道側)に車間をとった。	
経過4	当事者A (機関員)	開けた車間で通過できない可能性を考え減速し、緊急停止できる態勢をとった。	
経過5	当事者A (機関員)	脇道の車両が若干前進したが、車間をとり、減速したため、危険はなく通過した。	
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

○ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

危険情報を把握、予見できた。危険事象の対応方法を知っていた。集中力、注意力があった。現場周辺の地理を知っていた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

【指揮隊】図面

